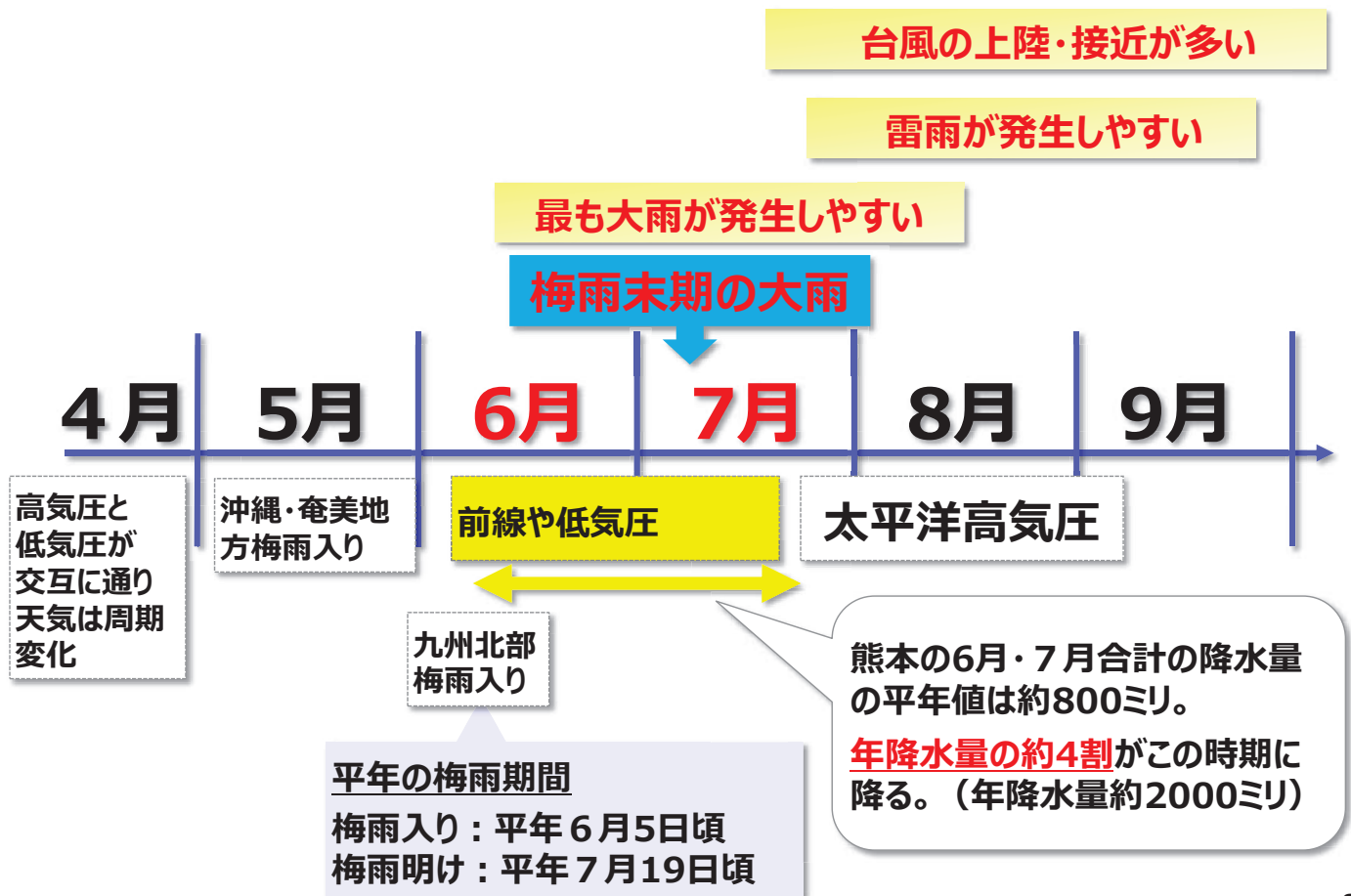


## 報告（1）

# 今年の梅雨の見通し等について

令和5年5月23日  
熊本地方気象台

1. 今年の梅雨の見通しについて
2. 地域防災支援強化の取り組みについて
3. 線状降水帯の予測情報の提供について
4. (参考)キキクルのご紹介



2

## 今年の梅雨の見通し（5～7月の天候の見通し）

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう3か月の気温は高い
- 向こう3か月の降水量はほぼ平年並

|    |  |
|----|--|
| 5月 | 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い                     |
| 6月 | 平年と同様に曇りや雨の日が多い                                |
| 7月 | 期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い<br>期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多い |

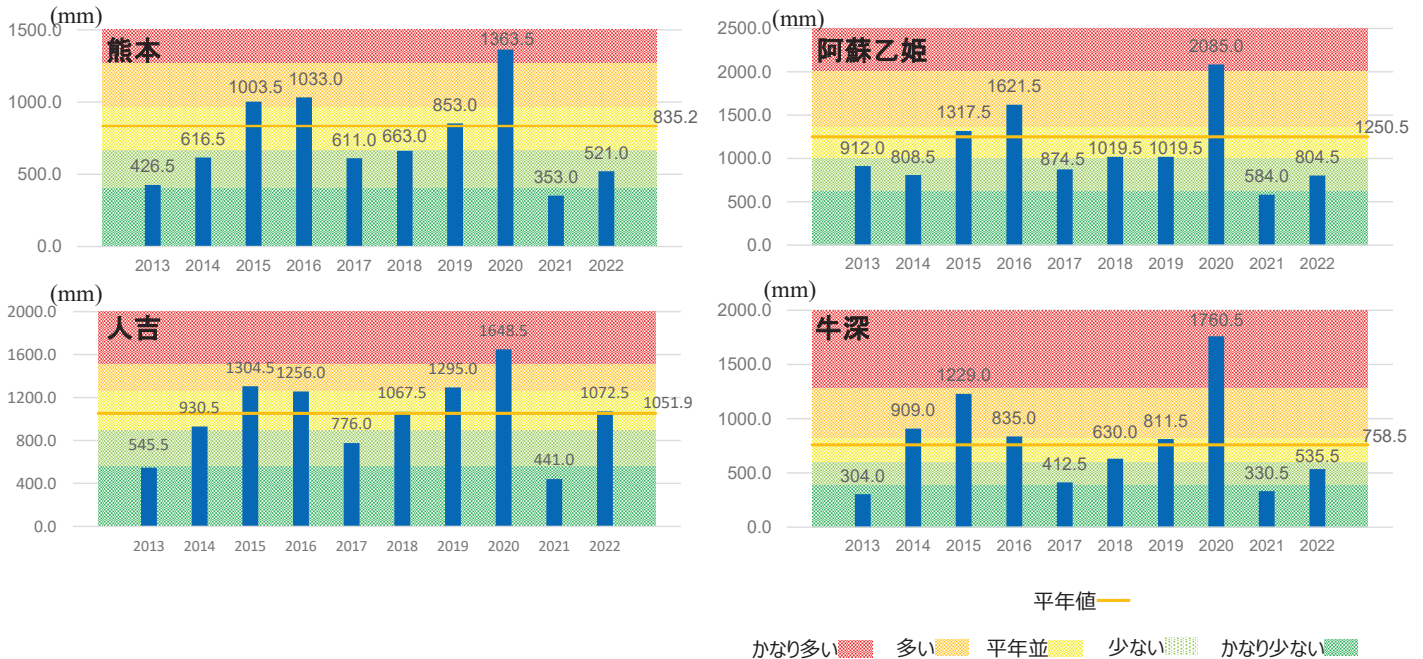
|       | 5月                | 6月                | 7月                 |
|-------|-------------------|-------------------|--------------------|
| 気 温   | 低 並 高(%)          | 低 並 高(%)          | 低 並 高(%)           |
|       | ほぼ平年並<br>30:30:40 | 高い<br>20:30:50    | 平年並か高い<br>20:40:40 |
| 降 水 量 | 低 並 高(%)          | 低 並 高(%)          | 低 並 高(%)           |
|       | ほぼ平年並<br>30:40:30 | ほぼ平年並<br>30:40:30 | ほぼ平年並<br>30:30:40  |

3

## 九州北部地方の梅雨入り、梅雨明け日 【平年値】梅雨入り：6月4日頃、梅雨明け：7月19日頃

※九州北部地方：山口県、福岡県、大分県、長崎県、佐賀県、熊本県

### 熊本県内主要4地点における梅雨時期の合計降水量(2013年以降)

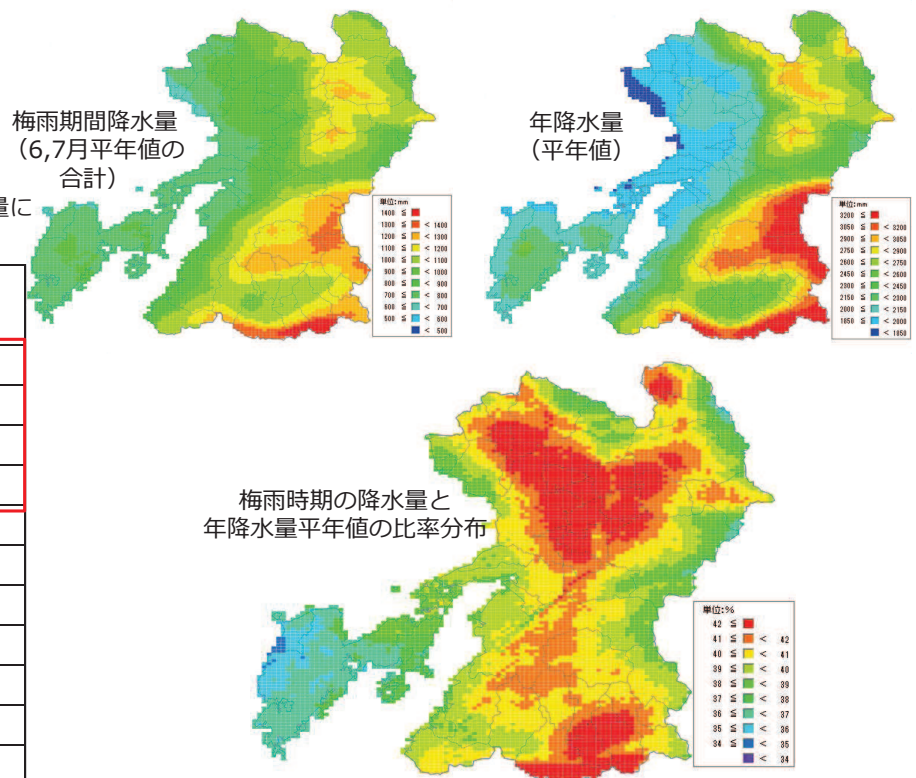


4

## 熊本の梅雨の特徴

平年値(1991~2020年)による、年間降水量に占める梅雨期間(6~7月)の降水量の割合

| 観測地点 | 平年降水量 (mm) |        | 比率 % |
|------|------------|--------|------|
|      | 梅雨期間       | 年間     |      |
| 熊本   | 835.3      | 2007.0 | 42   |
| 阿蘇乙姫 | 1250.5     | 3009.6 | 42   |
| 人吉   | 1051.9     | 2534.9 | 41   |
| 牛深   | 758.5      | 2109.8 | 36   |
| 下関   | 563.0      | 1712.3 | 33   |
| 福岡   | 548.7      | 1686.9 | 33   |
| 佐賀   | 693.8      | 1951.3 | 36   |
| 長崎   | 628.6      | 1894.7 | 33   |
| 大分   | 574.9      | 1727.0 | 33   |
| 宮崎   | 855.6      | 2625.5 | 33   |
| 鹿児島  | 935.1      | 2434.7 | 38   |



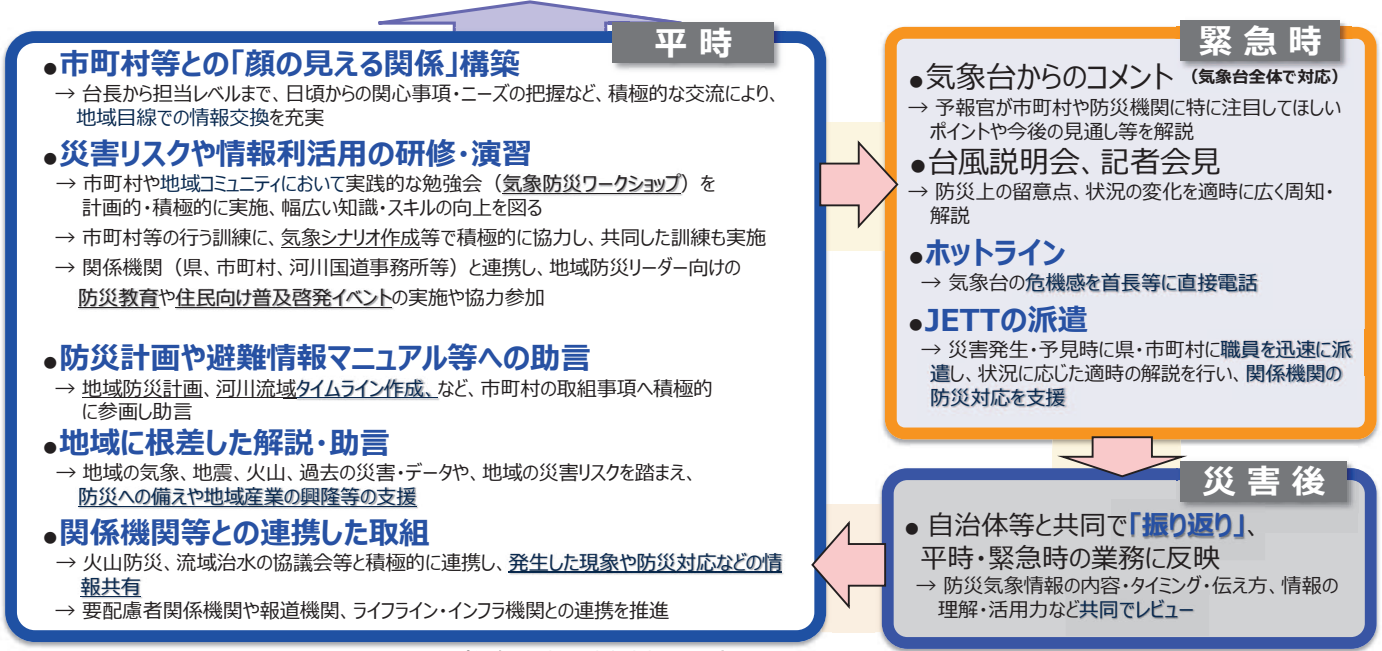
熊本県内の年間降水量は、九州山地西側の球磨地方や阿蘇地方で特に多い。  
また、年間降水量に占める梅雨期間の降水量の割合が比較的大きいのが特徴。  
たとえば、熊本では年間降水量2000ミリ前後に対し、6~7月の梅雨期間の降水量は800ミリ程度で、**年間降水量の約4割**を占める。

5

## 【地域の防災力の向上を図るため、平時や緊急時において、自治体の災害対応を支援】

- ・「防災意識社会」を担う一員として、自治体、関係機関と一体となって、地域の気象防災に一層貢献
- ・防災気象情報の「理解・活用」（読み解き）が進むよう、平時からの取組を一層促進

## 平時からの取組により、市町村等関係機関の適時・的確な防災対応判断に貢献



JETT = JMA Emergency Task Team（気象庁防災対応支援チーム）

## 市町村との連携【緊急時】

### JETT派遣 JMA Emergency Task Team 気象庁防災対応支援チーム

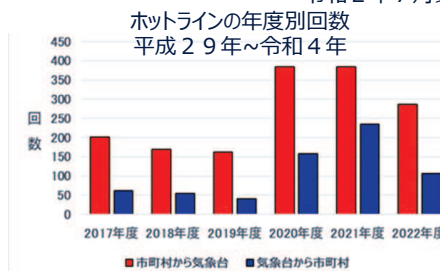
- 令和2年7月豪雨（災害発生は7月4日）  
災害発生翌日の7月5日から人吉市、芦北町、八代市、あさぎり町、球磨村へJETTを派遣
- 令和4年は災害級の大雨等はなかったため市町村へのJETT派遣なし



令和2年7月豪雨時のJETT派遣

### ホットライン

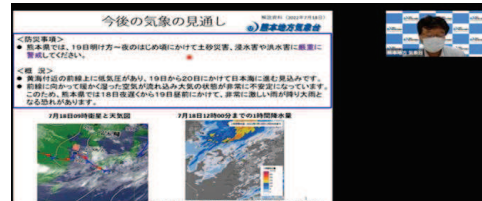
- ・大雨時、台風接近時に危機感を伝えるホットラインを実施（106回）
- ・気象状況の問い合わせへ随時解説（287回）



市町村JETT派遣（令和2年7月 人吉市）

### 警報級の現象が予想された場合の気象解説

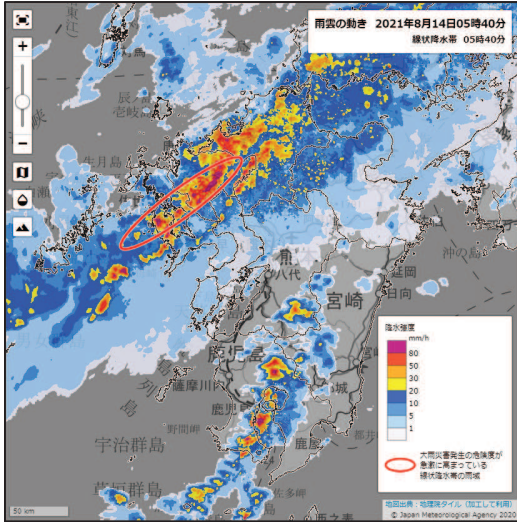
- ・大雨の警報級の可能性[高]の気象解説: 7回
- ・台風接近時の気象解説: 4回
- ・大雪の警報級の可能性[高][中]の気象解説: 3回
- ・危機感共有と命を守る災害報道連携会議における臨時会気象解説: 14回



大雨[高]の気象解説 令和4年7月18日



## 令和3年6月 顕著な大雨に関する気象情報



「線状降水帯」というキーワードを使った顕著な大雨への注意喚起を開始

命に危険が及ぶ〇〇災害や〇〇による災害発生の危険度が急激に高まっています。

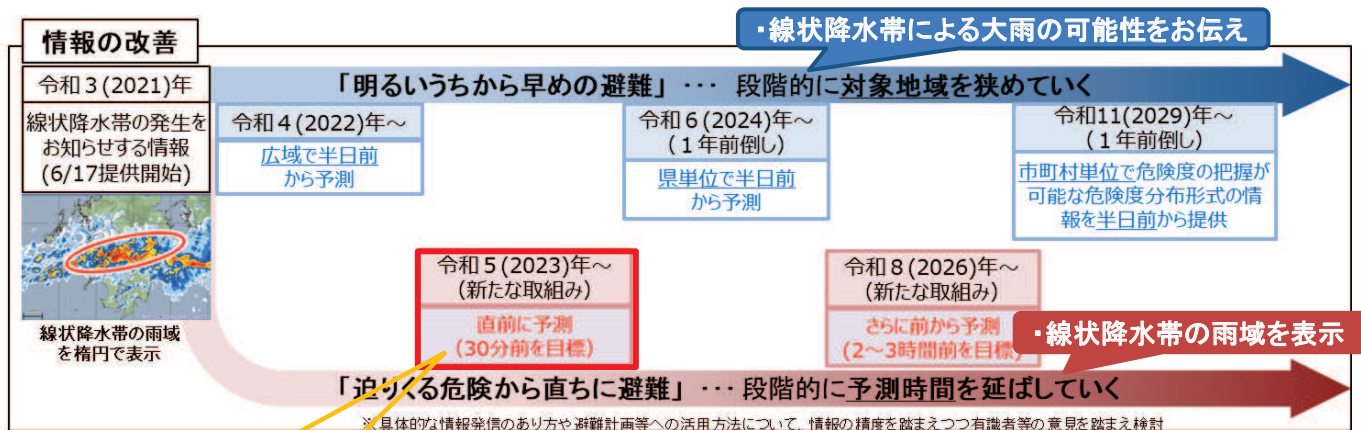
〇〇 大雨災害発生の危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域

## 令和4年6月 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ

線状降水帯による大雨発生の可能性が高い場合に、複数の県にまたがる広域を対象に、線状降水帯による大雨となる可能性を半日程度前から気象情報において呼びかける改善を実施。

〇〇地方では、〇〇にかけて線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。

8



「顕著な大雨に関する気象情報」は、現在は発表基準を実況で満たした場合に発表しています。

5月25日以降は、予測技術を活用し、線状降水帯による大雨の危機感を少しでも早く伝えることを目指します。

### 【変更となる情報】

- 「雨雲の動き」と「今後の雨」（気象庁HP）  
予測で基準に達した場合は地図上で大まかな場所を赤楕円（破線）で囲って表示します。
- 発表条件を満たした場合の事例の掲載（気象庁HP）  
 実況、予測で発表条件を満たした場合の事例（過去1年分）を気象庁HPに掲載します。

9

大雨による土砂災害、浸水害、洪水害の危険度が高まった「地域」の判別のため、以下の3つのメッシュ情報（危険度分布図）を提供しています。

- ① **土砂キキクル**（土砂災害の危険度分布） ② **浸水キキクル**（浸水害の危険度分布） ③ **洪水キキクル**（洪水の危険度分布）
- 雨雲の動き**（高解像度降水ナウキャスト）で雨雲の動きを確認しつつ、併せて**キキクル**を活用して災害発生の危険度の高まりを把握願います。

## スマートフォンで閲覧する方法



熊本地方気象台スマートフォン版HP

[https://www.data.jma.go.jp/kumamoto/smart/sp\\_top.htm](https://www.data.jma.go.jp/kumamoto/smart/sp_top.htm)

### 雨雲の動き （高解像度降水ナウキャスト） 1時間先までの雨雲 の動きがわかる！

強い雨雲の動き、雷、突風の危険が事前にわかる！

- 雨雲の動き
- 雷活動度
- 竜巻発生確度
- アメダス10分間雨量
- 落雷・雲放電
- 線状降水帯

### 土砂キキクル（危険度分布） 2時間先までの土砂災害 の危険度がわかる！

危険度が高まっている場所の土砂災害警戒区域等では、避難の判断を！

**極めて危険**  
《命に危険が及び土砂災害がすでに発生しているにもかかわらず極めて危険な状況。》  
この段階の前に避難を完了しておく。

**非常に危険**  
土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所へ避難する。

**警戒**  
土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所へ避難する。高齢者等は速やかに避難する。

**注意**  
ハザードマップ等により避難行動を確認する。今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。

今後の情報等に留意

10

## スマートフォンで閲覧する方法



熊本地方気象台スマートフォン版HP

[https://www.data.jma.go.jp/kumamoto/smart/sp\\_top.htm](https://www.data.jma.go.jp/kumamoto/smart/sp_top.htm)

### 浸水キキクル（危険度分布） 1時間先までの浸水害 の危険度がわかる！

危険度が高まっている場所では、各自の判断で浸水が及ばない場所への移動

**災害切迫**  
《重大な浸水害が切迫。浸水害がすでに発生している可能性が高い状況》  
命の危険  
直ちに身の安全を確保

**危険**  
周囲の状況を確認し、各自の判断で屋内の浸水が及ばない階に移動する。

**警戒**  
安全確保行動をとる準備が整い次第、早めの行動をとる。高齢者等は速やかに安全確保行動をとる。

**注意**  
今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意。ただし、各自の判断で住宅の地下室からは地上に移動し、道路のアンダーパスに近づかないにする。

今後の情報等に留意

### 洪水キキクル（危険度分布） 3時間先までの洪水 の危険度がわかる！

危険度が高まっている河川沿いでは、水位計等で現況も確認の上で避難の判断を！

**災害切迫**  
《重大な洪水災害が切迫。洪水災害がすでに発生している可能性が高い状況》  
命の危険  
直ちに身の安全を確保

**危険**  
水位が一定の水位を越えている場合には安全な場所へ避難する。

**警戒**  
水位が一定の水位を越えている場合は高齢者等は安全な場所へ避難する。高齢者等以外の方も、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自らの避難の判断をする。

**注意**  
ハザードマップ等により避難行動を確認する。今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。

太い線は「指定河川洪水予報」

今後の情報等に留意

- **雨雲の動き**（高解像度降水ナウキャスト）は、「これまでの雨雲の動き」 + 「今後1時間先までの5分ごとの雨雲の詳細な動きの予想」を閲覧できます。
- **今後の雨**（降水短時間予報）は、「これまでの雨雲の動き」 + 「今後15時間先までの1時間ごとの雨雲の動きの予想」を閲覧できます。

11

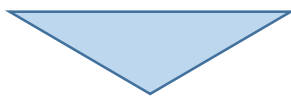
# 令和4年度合同会議での 御意見への対応状況について



# 1. 防災士アドバイザー登録制度の創設

## 〔意見の概要〕

防災士の資格を活かしきれていない、防災士の活躍の場がないという声を聞く。  
県で防災士アドバイザー登録制度を創設いただきたい。



## 〔対応状況〕

令和4年9月に「熊本県防災士アドバイザー登録制度」を創設

### 活動内容

- ・ 自主防災組織等に対する地区防災計画作成の助言
- ・ 地域でのマイタイムライン作成講座の実施
- ・ 住民参加型訓練の実施支援 など

### アドバイザー登録と活動の流れ

- ① 希望する防災士は市町村へ登録申請  
↓
- ② 市町村から県への推薦  
↓
- ③ 県で防災士アドバイザー研修(※)の実施及び登録  
↓
- ④ 支援依頼のあった団体へ防災士アドバイザーを派遣し、支援を実施

### ※防災士アドバイザー研修の概要

- ・ 1日目:地域の実情に応じたマイタイムラインの作成支援演習 等
- ・ 2日目:マイタイムラインを活用した住民参加型訓練の企画演習、地区防災計画作成演習

### 《登録者数 (R5.3.末時点)》

| 圏域       | 熊本市 | 宇城 | 上益城 | 菊池 | 鹿本 | 玉名 |
|----------|-----|----|-----|----|----|----|
| 圏域合計 (人) | 7   | 9  | 4   | 7  | 7  | 2  |
| 圏域       | 阿蘇  | 八代 | 芦北  | 球磨 | 天草 | 総計 |
| 圏域合計 (人) | 2   | 4  | 6   | 1  | 0  | 49 |

### 《防災士アドバイザーへの研修の様子》





## 《令和4年度の防災士アドバイザー派遣(活動)実績》

| 圏域  | 市町村 | 対象地区等数 | 対 象    | 参加人数(延べ) | 回 数 | 派遣(活動)内容       | 派遣人数(延べ) |
|-----|-----|--------|--------|----------|-----|----------------|----------|
| 宇城  | 宇土市 | 8      | 自主防災組織 | 20名      | 1回  | 地区防災計画作成研修講師   | 5名       |
| 上益城 | 甲佐町 | 19     | 自主防災組織 | 57名      | 1回  | 地区防災計画作成研修講師   | 3名       |
|     | 御船町 | 1      | 施設職員等  | 150名     | 3回  | マイタイムライン作成研修講師 | 3名       |
| 菊池  | 菊池市 | 7      | 自主防災組織 | 182名     | 7回  | マイタイムライン作成研修講師 | 14名      |
| 鹿本  | 山鹿市 | 1      | 自主防災組織 | 22名      | 1回  | 地区防災計画作成研修講師   | 4名       |
| 計   |     |        | —      | 431名     | 13回 | —              | 29名      |

※上記のほか「災害と人権」研修動画（人権同和政策課）に防災士アドバイザー2名出演。

### 【防災士アドバイザー活動事例】

#### ■事例①（菊池市）

～地区の防災組織の

マイタイムライン作成研修講師～

期日 2月5日（日）

会場 高江区公民館

対象 地域住民 20名

概要 マイタイムライン作成講座で菊池市の防災士アドバイザーが研修講師を務めた。



講師：防災士アドバイザー

#### ■事例②（御船町）

～高齢者福祉施設職員の

マイタイムライン作成研修講師～

期日 2月13日（月）16日（木）24日（金）

会場 御船町内特養護老人ホーム

対象 高齢者福祉施設職員等 各50名

概要 マイタイムライン作成講座で御船町の防災士アドバイザーが研修講師を務めた。



講師：防災士アドバイザー

#### ■事例③（山鹿市）

～地区防災計画作成研修講師～

期日 2月16日（木）

会場 寺島公民館

対象 自主防災組織役員 22名

概要 地区防災計画作成会にあたり山鹿市の防災士アドバイザーが研修講師を務めた。



講師：防災士アドバイザー

#### ■事例④（宇土市）

～地区防災計画作成研修講師～

期日 3月11日（土）

会場 走瀧公民館

対象 自主防災組織役員 20名

概要 地区防災計画作成会にあたり宇城市の防災士アドバイザーが研修講師を務めた。



講師：防災士アドバイザー



## 2. マイタイムラインの有効活用に向けた仕組みの構築

### 〔意見の概要〕

学校現場でのマイタイムラインの有効的な活用方法、仕組みづくりを  
検討していただきたい。

### 〔対応状況〕

#### <令和4年度の主な取組>

(1) 学校現場で、担当の先生がマイタイムラインを活用した防災授業に取り組めるよう「防災教育教材」及び「指導の手引き」を作成(※1)。モデル授業(※2)の様子を作成した参考動画も合わせて、県教育センターのホームページに掲載。

(※1) 受託団体により防災教育モデル授業を実施し、小学生向け、中高生向けの2パターンの教育教材を作成。

(※2) モデル授業校は20校(小8校・中6校・高4校・支援学校2校)募集。

(2) 県内全ての新中学1年生へのマイタイムラインガイドブックの配布。

(参考) 令和3年度には、県内全世帯及び全中学生に配布。

(3) マイタイムライン作成支援動画を制作し、ユーチューブで公開。

#### 《令和5年度の主な取組》

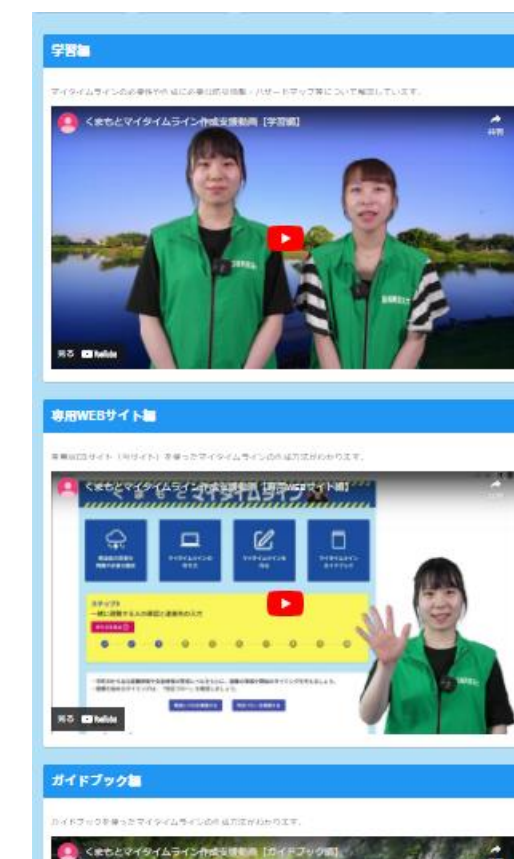
(1) マイタイムラインを活用した防災モデル授業の実施(継続)

(2) 県内全ての新中学1年生へのマイタイムラインガイドブックの配布。

(3) 職場から家庭への浸透を図るための、「企業人向けマイタイムライン作成セミナー」(仮称)の開催



防災教育モデル授業の様子



マイタイムライン作成支援動画



マイタイムラインガイドブック 4

### 3. 地域コミュニティの見直しによる災害に強い地域づくりの推進

#### 〔意見の概要〕

過去の災害では、避難所で様々な支援を受けられる人と、在宅避難のため支援を受けられない人がおり、その中で、地域コミュニティが構築されている集落とそうでない集落とでは、支援に対し大きな差があった。それぞれの地域のコミュニティのあり方をもう一度見直し、災害に強い地域づくりを推進するよう、知事をお願いしたい。

#### 〔対応状況〕

◆子どもや高齢者、障がい者など、地域の誰もが集い、支え合う地域の拠点「地域の縁がわ」づくりの推進・支援事業を引き続き実施する。

- ① 地域の縁がわづくり取組みへの補助による活動団体への支援  
防災活動を取り入れた取組みを「+α防災」として特に推進
- ② 県内の取組事例についての意見交換会を実施し、好事例を広く周知

縁がわ登録数(令和4年度末現在) : 581  
(「+α防災」取組団体 : 7)

◆大規模災害時に、市町村と地域の間で情報を共有し、適切な災害対応が行われるよう、市町村と自主防災組織との連携、自主防災組織等の活動の強化、地域防災リーダーの育成などの充実を図る。

【+α防災】

きんじょりよく

防災訓練で育てるご近所同士の「近助力」



球磨郡あさぎり町熊野地区  
年1回の防災訓練で、近所班ごとに、安否確認の進め方、初期消火や救助方法などを学んでいる。



## 4. 被災後のケアや相談できる仕組みの構築

### 〔意見の概要〕

熊本地震の被災者はまだ災害前の元気を取り戻していないと思うので、被災後のケアや相談できる仕組みがあるとよいと思う。

### 〔対応状況〕

被災者の方々の生活再建に向けては、安心した日常生活を支えるために、総合的な支援を行う地域支え合いセンターが設置され、関係団体と連携して被災者の心のケアに取り組んできた。

熊本地震により設置された地域支え合いセンターの活動は終了しているが、一般福祉施策への引継ぎを行い、切れ目のない支援を続けている。

引き続き、市町村や地域支え合いセンター、関係機関と連携して、被災者支援に取り組んでいく。

令和5年5月現在設置：7市町村（八代市、人吉市、芦北町、津奈木町、相良村、山江村、球磨村）

### 地域支え合いセンターの活動内容

① 見守り・巡回訪問



② 相談受付・専門機関等へのつなぎ



③ コミュニティづくりの支援



④ 関係機関等との連携





# 5. 被災後のケアや相談できる仕組みの構築

## 〔意見の概要〕

熊本地震では、ご近所の高齢者や障がい者の方の有無や所在・名前等が分からず、探し回って避難させた経験がある。区長や民生委員、消防団等には地域住民の情報を提供できると、連携しやすかった。

## 〔対応状況〕

自ら避難することが困難であり、特に支援が必要な高齢者や障がい者の方については、市町村が名簿を作成しており、本人の同意がある場合に限り、平時から、避難支援関係者(市町村が地域防災計画等で定める消防機関、民生委員等)へ提供される。

また、当該名簿のうち、同意を得られた方に対しては、その方の個別避難計画も作成されており、県において市町村の取り組みを支援している。

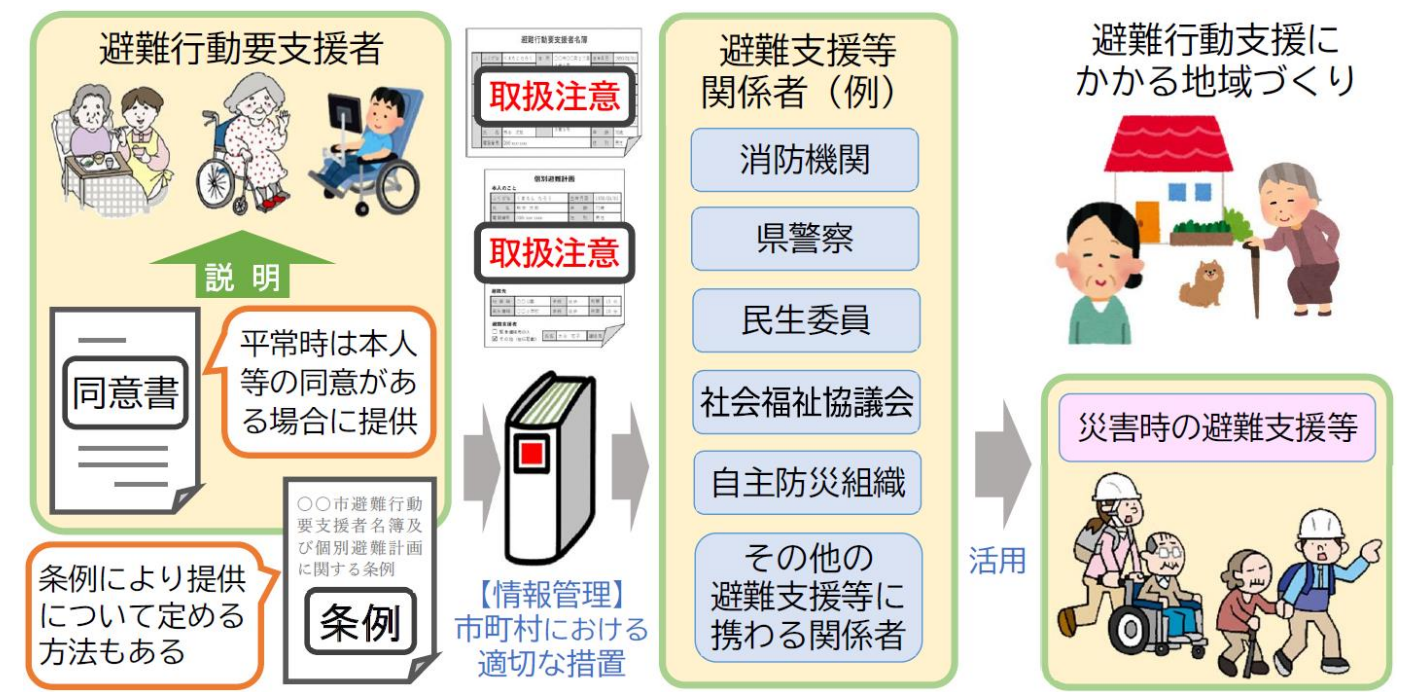


## <これまでの取り組み>

- ① モデル事業として、計画作成・見直しに係るワークショップや計画検証のための避難訓練等を県内6地区で実施(R4)
- ② ①を踏まえ、個別避難計画取組事例集を作成・配布
- ③ 避難支援体制づくりアドバイザー講師の派遣(R2~)
- ④ 市町村個別ヒアリングの実施(R2~)

## 《令和5年度の主な取り組み(予定)》

- ・取組事例集を活用した市町村等への研修会の開催
- ・避難支援体制づくりアドバイザー講師の派遣(継続)
- ・市町村個別ヒアリングの実施(継続)





## 6. 民間と連携した取り組みの推進

### 〔意見の概要〕

長期化する避難生活では、一見重要ではないと思われること(コンサートや子どもたちの学習の場 等)が重要になってきたりする。

このため、民間とも連携してそのような取り組みの視点を持つことが重要である。

### 〔対応状況〕

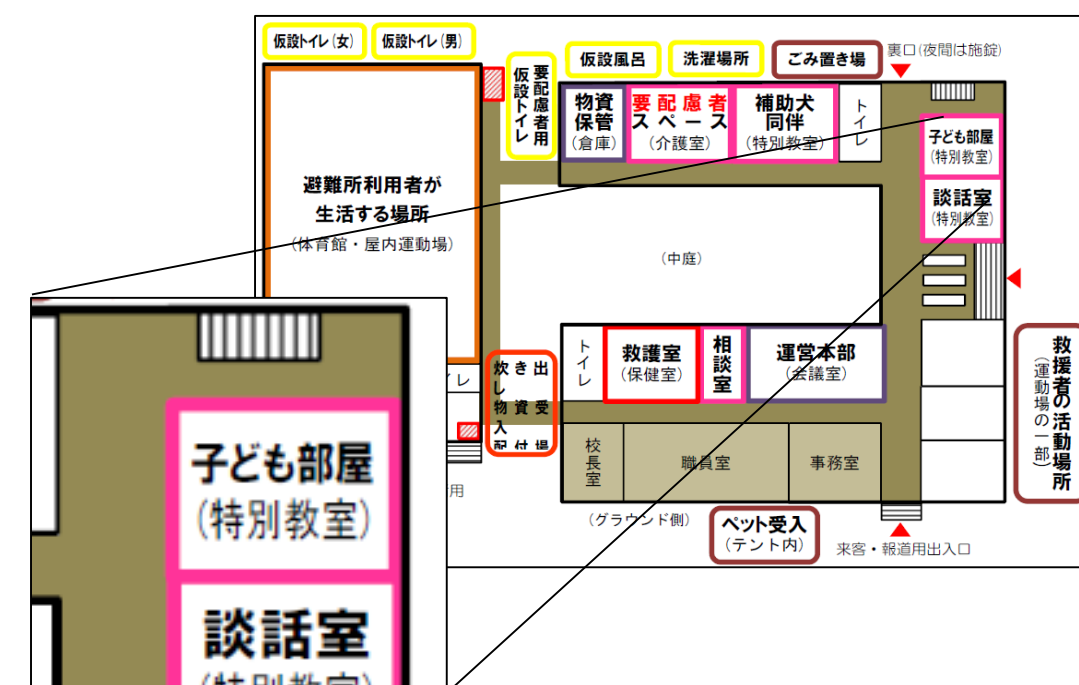
- ◆熊本地震を契機として立ち上がった、災害ボランティア団体の情報共有会議「火の国会議」等を通じて、避難所の環境改善に関して民間団体と連携を図っている。
- ◆熊本地震の際は益城町総合体育館、7月豪雨の際は旧多良木高校等において避難所運営のノウハウを有するYMCA等の民間団体にその運営を委託し、被災自治体が連携して避難所の運営を行った。
- ◆県の避難所運営マニュアルにおいて、避難所スペースとは別に、子ども用のスペースとして“子ども部屋”を含めた掲載するとともに、避難所内に整備すべき部屋や機能のチェックリスト項目としても記載しており、市町村へ配布・周知している。



<熊本地震:益城町総合体育館>



<同左、マッサージ支援>



<県避難所運営マニュアル:レイアウト例>

引き続き、避難所の環境改善に関して市町村への周知・情報共有を図るとともに、災害時のボランティア活動との連携強化に取り組んでいく。





# 熊本県防災センターについて

令和5年度(2023年度)熊本県防災会議等合同会議

2023.5.23

1

## 建設の経緯

・熊本地震において、県庁新館10階に配置されていた「防災センター」は、高層階配置による大きな揺れのため、①エレベーター停止により災害対応の指令機能と関係機関の移動や連携に苦慮、②政府現地対策本部等応援機関の活動場所の不足等、災害対応に支障を来した。

・また、地震により県央広域本部「熊本土木事務所」及び「熊本総合事務所」が被災し、建替えによる復旧が必須となった。



災害対応の拠点性や県民サービスの利便性、組織面の効率性、施設の有効活用、建設費の縮減等の観点から総合的に検討した結果、3施設を本庁敷地内に合築により整備することを決定(平成29年度末)

<建設に係るスケジュール>

◆設計:平成30年(2018年)11月~令和2年(2020年)5月

◆工事:令和2年(2020年)12月~令和5年(2023年)3月

令和3年(2021年)1月20日着工、令和5年(2023年)3月31日完成

2

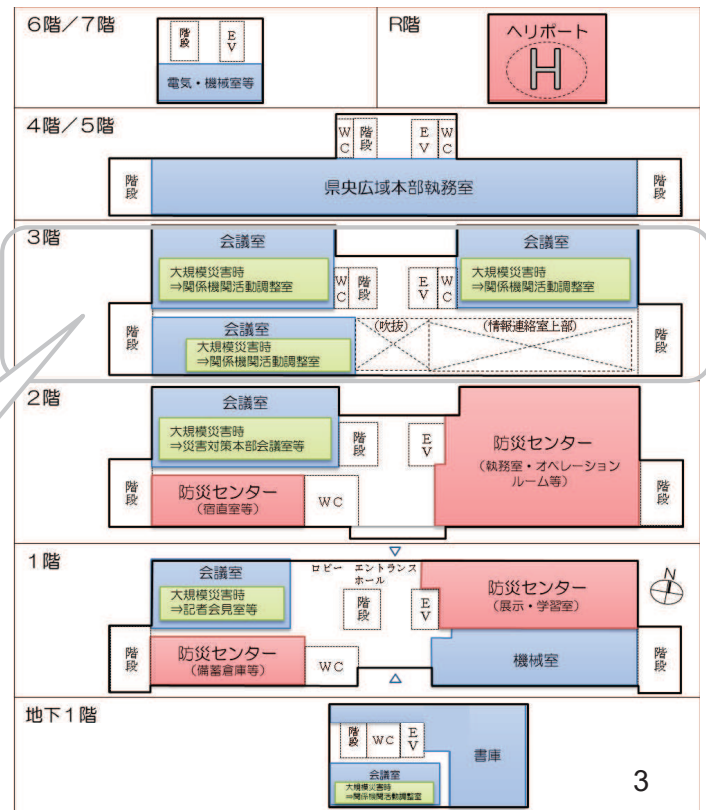
# 建物の概要

## ●庁舎概要

構造：鉄筋コンクリート造（免震構造）  
 階数：地下1階、地上7階／事業費：約97億円  
 延べ面積：9,970㎡  
 内訳：県央広域本部7,333㎡  
 防災センター2,637㎡  
 （大規模災害時6,648㎡）

### 【3階】

大規模な災害が発生した場合に政府現地対策本部や緊急援助消防隊、自衛隊等の応援機関が専用で使用できるスペースを確保  
 ※平時は県庁会議室として使用



## 1 県民の安全・安心を守る庁舎

### ◆大規模災害に耐える庁舎

- ・基礎免震構造とPCa（プレキャスト鉄筋コンクリート）構造  
 ⇒ 大規模地震発生後直ちに災害応急対応の活動が可能

※ PCaとは、柱や梁などのコンクリート部材を工場で製造した後、現場へ持ち込み躯体を組み立てる工法。繰り返しの揺れに強い特徴がある。

- ・設備のエネルギー源を多重化  
 ⇒ 優れた復元力（レジリエンス）

※ 常時備蓄する液体燃料だけでなく、耐震・供給持続性の高いガスも燃料にできる発電機の設置と、外部電源車の接続対応による多重化により、エネルギー供給を安定化。

### ◆災害に備えたライフライン等の確保

- ・非常用発電設備、鋼板製受水槽、緊急排水貯留槽等  
 ⇒ ライフラインが遮断されても、最低72時間は災害対策を継続可能

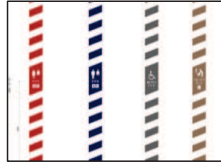
### ◆屋上に防災ヘリポートを整備

### ◆無電源自動ドア（1階）の設置

## 2 人と環境にやさしい庁舎

### ◆ユニバーサルデザインへの配慮

- ・シンプルでわかりやすい空間構成
- ・各階ごとに色を割り当てた「フロアカラー」
- ・視認性を高めるゼブラ模様の案内板
- ・避難時における車いす待機スペース
- ・思いやりトイレ



### ◆環境と共生する庁舎

- ・自然採光の積極的活用とLED照明
- ・地中熱を活用した空調設備

### ◆木材の活用について

- ・壁や床、天井に県産木材を活用（1階EVホールや廊下天井の木部にはくまモンのイラスト入り）
- ・東京2020オリンピック・パラリンピックの選手村ビレッジプラザに使用された県産木材を再利用（1階展示・学習室の壁面、新館連絡通路）



5

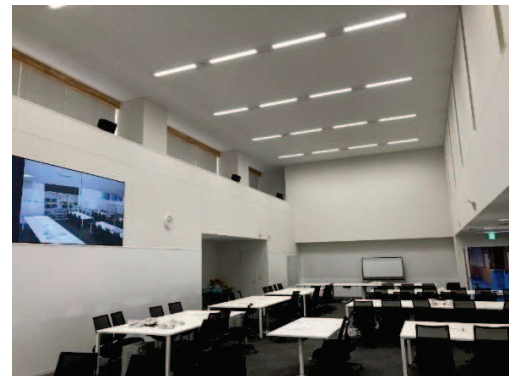
# 災害対応拠点機能の概要

## 災害対応の拠点

- 熊本県内における災害対応の指令拠点となります。
- 南海トラフ地震時には、九州を支える広域防災拠点としての役割を担うことを想定。

### 強化された災害対応機能

- 熊本地震の経験を踏まえ、低層階(2F)に災害対策本部やオペレーションルーム等の主要な指令機能を配置
- オペレーションルームは、自衛隊、警察、消防等活動部隊に加え、電気・ガス等ライフライン事業者を配置できるよう拡充。(前体制62席→新体制130席)
- 大規模災害時における政府現地対策本部や自衛隊、緊急消防援助隊、警察等、応援機関の活動室を3Fに新設。



オペレーションルーム(2階)

6



## 応援機関の活動室

- 大規模災害発生時に、政府現地対策本部との連携が可能な災害対応スペースの確保(現状の3.3倍)及び通信設備の強化。
- 関係機関からの受援を無理なく受け入れることが可能な執務室等を確保



災害対策本部会議室(2階)



関係機関の活動調整室等(3階)



仮眠室(2階)

## 熊本県防災センター 展示・学習室

### ○ 施設概要

- ・場 所 : 防災センター 1階
- ・面 積 : 約430㎡
- ・開館時間 : 平日 9時~17時
- ・入館料 : 無料

- 子どもから大人まで、どなたでも防災について学べます。
- 視察や防災勉強会等でのご利用等ご連絡ください。

受付 ☎096-333-2111

### <パネル展示>

- ・県内の主な災害の記録
- ・地震災害、風水害、火山災害のメカニズム
- ・熊本地震や令和2年7月豪雨の被害状況や初動・応急対応状況
- ・創造的復興の取組状況等



【熊本の災害年表】



### <VR災害疑似体験コーナー>

- ・地震編
- ・風水害編



【VR防災体験】

### <プロジェクションマッピング>

- ・地震編(熊本地震の状況等)
- ・風水害編(R2年7月豪雨の状況等)
- ・火山編(阿蘇山噴火活動の状況等)



【風水害編の線状降水帯映像】

### <学習プログラム>

- ・展示・学習室を活用した学習機会を提供し、防災企画イベントも実施していきます。

(利用例)

- ・自治会や自主防災組織への防災講座やワークショップ(予約制)
- ・児童・生徒等の社会科見学や防災教室、防災ゲーム等(予約制)



【防災ワークショップ】

# フリーアドレス制の導入

- ◆多様な働き方・効率的な働き方を旨し、執務室にフリーアドレス制を導入
- ◆庁内の無線LAN環境の整備や職員へのPHS配布なども併せて実施
- ◆県央広域本部においては、県の出先機関、技術分野で初めての導入

- ・行政文書の電子化の推進(電子決裁の推進)
- ・ペーパーレス・オンライン会議・打合せの浸透
- ・在宅勤務とモバイルワークの浸透
- ・コミュニケーションの活性化
- ・組織変更・人数変更への柔軟な対応
- ・オフィスの美化促進

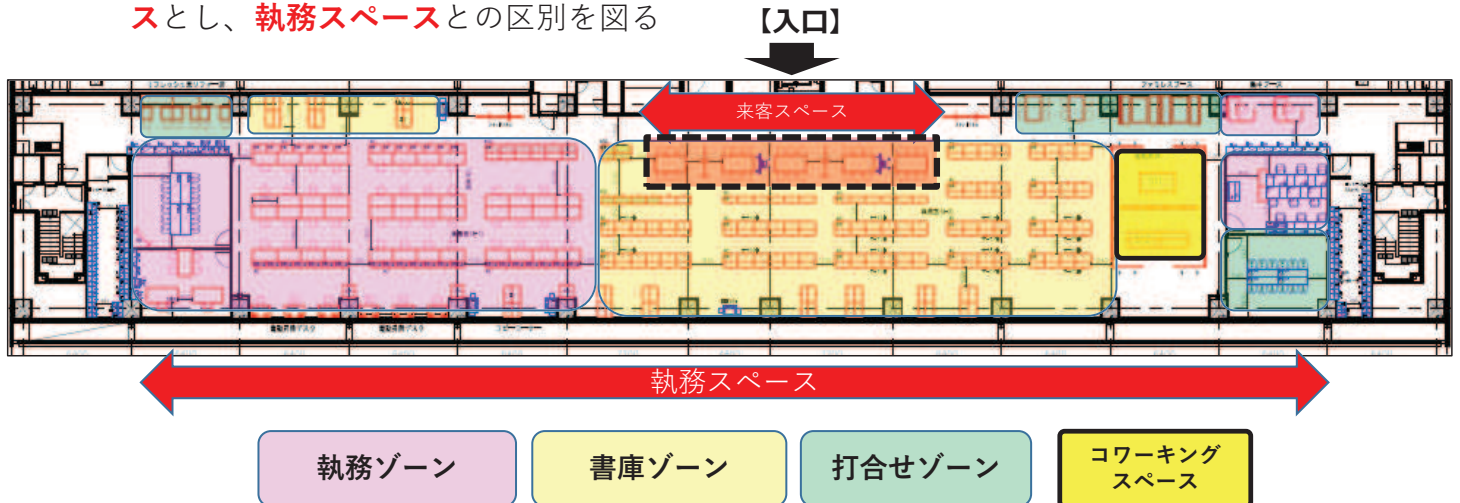
組織の生産性の向上  
につながる

9

## 県央広域本部の概要

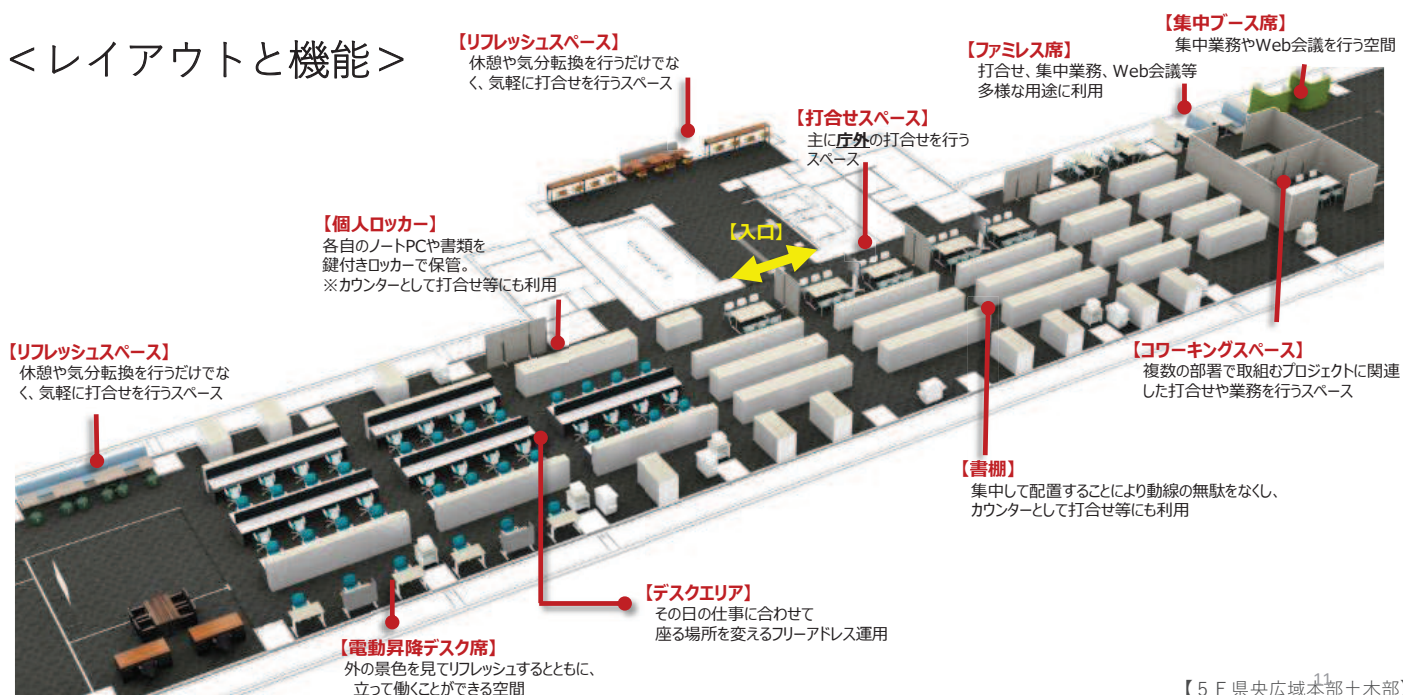
4階に総務部及び農林部、5階に土木部を配置

<ゾーニング> セキュリティと業務効率に考慮し、執務室手前の入り口付近を**来客スペース**とし、**執務スペース**との区別を図る



# 県央広域本部の概要

## <レイアウトと機能>



## 熊本地震に係る祈念碑について

令和5年4月19日  
危機管理防災課、観光国際政策課

### 1 設置趣旨

- (1) 失われた尊い命に思いを致し、平穏を祈るとともに、大切な人を失った方々の痛みや悲しみを癒す場とする。
- (2) 県民が、熊本地震の経験を思い出し、当時の教訓をもとに災害への備えについて考える場とする。
- (3) 防災センター展示・学習室において、過去の災害の教訓やノウハウ等を学んだ来館者が、学習終了後に、地域の防災リーダーとして決意する場とする。

### 2 碑文について

石碑の前に立たれる方々の境遇に応じた様々な想いを受け止めるため、各々がこの場所の意味合いを定義付けしてもらえよう、「祈念」としました。

※文字については知事が揮毫(きごう)

### 3 一般公開について

令和5年(2023年)5月17日(水)の防災センター完成式の後、一般に公開します。







## くまもと防災宣言

私たちは、近年の世界的な異常気象の中、平成24年熊本広域大水害や平成28年熊本地震、令和2年7月豪雨と何度も大きな災害にあってきました。

そのたびに、混乱と戸惑いを経験しながらも、みんなで手を取り合い、苦難に立ち向かっていきました。

この経験や教訓を次の世代に引き継ぎ、自然を守り、自然を正しく畏（おそ）れ、ひとりひとりが取るべき行動を学び、忘れないようにするとともに、地域の中でつながり、防災の取組みを続けていくことが重要です。

そこで、ここに「くまもと防災宣言」を定めます。

一、ひとりひとりが、災害から自分の命を守るため、  
早めの避難を心がけます

一、もしもの時に備えるため、家族や地域で話し合います

一、困っている人を支えるため、地域で声を掛け合います

一、誰一人取り残さない社会を実現するため、県民  
総ぐるみで防災活動に取り組みます

### 命と自然を守る

く

ま

も

と

## 防災宣言

**ひとりひとりが、災害から自分の命を守るため、  
早めの避難を心がけます**

(ポイント)

- ☞ 普段から自然に対する理解を深めるとともに、災害から自分の命を守るため、ハザードマップを確認し、危険な場所に住んでいる方や避難に時間がかかる高齢者の方などは早めに避難してください。

**もしもの時に備えるため、家族や地域で話し合  
います**

(ポイント)

- ☞ ご家庭や地域社会において、マイタイムラインの作成や食料等の備蓄を進めるとともに、非常時の連絡手段や集合場所・避難場所などについて事前に話し合ってください。

**困っている人を支えるため、地域で声を掛け合  
います**

(ポイント)

- ☞ 普段から地域のことを理解しご近所の方と声をかけ合い、災害時には自力で避難することが難しい高齢者や障がい者の方のお手伝いをするなど、地域のつながりの中で災害に備え対応してください。

**誰一人取り残さない社会を実現するため、県民  
総ぐるみで防災活動に取り組みます**

(ポイント)

- ☞ これまで何度も大きな災害を経験してきた熊本県民だからこそ、誰一人取り残さない社会を実現するため、ひとりひとりの防災意識を高め、県民総ぐるみで防災活動の取り組みを続けてください。